

1F-04 大気粒子・化学物質の生体影響最前線：分子生物学が紐解く新たな知見

Cutting-Edge Insights into the Biological Impacts of Atmospheric Particles and Chemical Substances: Unveiling New Findings through Molecular Biology

開催日時：2025 年 12 月 3 日（水） 19:15 -20:30

会場：第 04 会場（パシフィコ横浜 会議センター 3F「303」）

オーガナイザー 三村 達哉（鶴見大学歯学部 眼科学講座）

吉田 安宏（産業医科大学医学部 免疫学・寄生虫学講座）

本シンポジウムでは、「大気粒子・化学物質の生体影響最前線」と銘打ち、大気中の有害物質が引き起こす健康リスクに関する最新の研究成果を紹介する。肉眼では確認できないマイクロ・ナノ微粒子は細胞レベルでは免疫攪乱・毒性を発揮し、この細胞毒性は呼吸器、アレルギー・免疫疾患、循環器、生殖、加齢、感覚器などへの全身への生体影響を及ぼす。学会キャッチフレーズの「この指とまれ！」を掲げ、分子生物学、環境科学、医学、工学のより広い分野の専門家が一堂に会し、微粒子の脅威に立ち向かうための議論を展開する。専門家たちが語る、微粒子の脅威とその解決策への挑戦を、ぜひお聞きください。

19:15～19:20 趣旨説明 吉田安宏（産業医科大学医学部 免疫学・寄生虫学講座）

19:20～19:31 石川良賀（京都大学大学院 地球環境学堂）

19:31～19:42 木村俊介（慶應大学 薬学・生化学/JST さきがけ）

19:42～19:53 吉田安宏（産業医科大学医学部 免疫学・寄生虫学講座）

19:53～20:04 Miao He（China Medical University Department of Environmental Health）

20:04～20:15 戸次加奈江（国立保健医療科学院 生活環境研究部）

20:15～20:26 三村達哉（鶴見大学歯学部眼科学講座）

20:26～20:30 総括 三村達哉（鶴見大学歯学部眼科学講座）